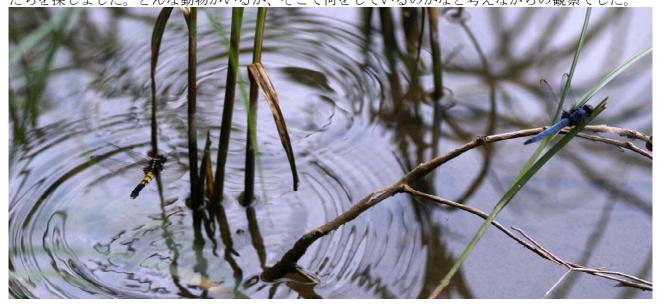
## 牛久:学校周辺に見る自然

第21号 牛久二小

2011 年 7 目 2 日 発行

## く ビオトープ周辺、夏の動物たち >

7/1、気温 30 ℃と大変暑い日でしたが、牛久二小3年生はビオトープや校庭の木や草にいる動物 たちを探しました。どんな動物がいるか、そこで何をしているのかなど考えながらの観察でした。



オオシオカラトンボ。産卵中のメス(左)とそれを見守るオス(右)

第 11 号でご紹介したように、5/20 の観察の時にはクロスジギンヤンマの産卵を観察しましたが、今回はオオシオカラトンボの産卵がみられました。皆さん「シオカラトンボ〜」と叫んでいましたが、それにしては腹が太めで青色が強く、翅のつけ根が黒いので、よく似たオオシオカラトンボでは?と考えていたところにメスが飛んできました。間違いなくオオシオカラトンボ。訂正しておいて下さいね。写真右の水色のがオス、左の黄色で腹部の後ろ側が黒いのがメスです。メスは何度もおしりを水につけながら産卵していました。シオカラトンボと同様、産卵中、メスを横取りされないようにオスが見守っています。なお複眼の色についても質問がありましたが、図鑑で調べたら、オオシオカラトンボの複眼は黒っぽく、シオカラトンボの複眼は緑がかっている点も区別点だそうで、言われてみれば確かに・・・と思いました。それとオスどうしが猛スピードで追いかけっこのようにとんでいたのは類張り争いで、こうして追い出されたオスが、新たな水辺を見つけてすみつくようになるようです。この日、他に目立ったのはコシアキトンボでした。ナツアカネを見つけたお友だちもいましたね。





次は葉を食べる虫たち。 植物にとっては困った虫 ですが、こうした虫たち もいて自然のバランスが 保たれ、あなたも生かさ れているのです。この世 に、要らない命なんてー つもないのですよ。

シロツメクサなどの葉を食べるウリハムシモドキ(左:ネジバナの花にいたのは休憩?) とサトイモなどの害虫でヤブガラシの葉を食べていたセスジスズメ (ガ) の幼虫(右)







さて、次は花に来る虫たち。雨もあがり気温も上がったためか、たくさんのチョウやハチが蜜や花粉を求めてやってきました。左はシジミチョウの仲間。小さいので、ガとまちがえたお友だちもいましたね。他にモンシロチョウとアゲハもいました。ネジバナの蜜を吸うベニシジミ(左)、シロツメクサの蜜を吸う "(右上)、"""バメシジミ(右下)

ハナバチの仲間もいろいろな花に 来ていましたが、特に多く訪れてい

たのはアベリア (ハナゾノツクバ ネウツギ) とシロツメクサでした。

また自分は花の蜜を吸うけど、巣の中の幼 虫に食べさせるために他の虫を狩るハチもいました。









アベリアの蜜を吸うクマバチ(上左),クロマルハナバチ(下左),ハナバチの仲間(下中)と、 シロツメクサの蜜を吸うヒメハラナガツチバチ(下右),幼虫のためのエサを狩るオオフタオビドロバチ(上右)

最後にみんなが気持ち悪がっていた、シロダモの木いっぱいにいたたくさんのアリ。よく見ると、アブラムシもたくさんいました。お尻から出てくる甘い汁をもらっていたのでしょうか? それとトウネズミモチの木の下にいたカナヘビ。あまりの暑さに木陰で涼んでいたのでしようか?





アブラムシから 甘い汁をもら う?アリ(左) と、木陰で涼む? カナヘビ(右)

【理科支援員 宮内】